

生物多様性

自然共生社会を構築するために

私たちの生活は、さまざまな自然や生き物のもたらす恵みによって成り立っています。ユニーではこうした生物多様性からの恵みを、商品を通してお客様にお届けしています。また、次世代を担う子ども達に、自然の中や生き物との触れ合い、農業体験などを通して「いろいろな生き物と一緒に生きていること」を学ぶ環境学習を行っています。

命と暮らしを支える生物多様性

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私たち人間を含めたさまざまな生き物が生まれ、つながり合って生きてきました。その生物多様性がもたらす恵み「生態系サービス」によって、私たちの命や暮らしは支えられています。生物多様性条約では、この生き物のつながりを3つのレベルに分類しています。

▶ 生物多様性の危機

地球上に3,000万種の生き物がお互いにつながり合っている生物多様性ですが、人間の活動が原因で毎年4万種が絶滅していると推定されています。その要因は、①開発・乱獲により自然を破壊している、②里地里山などに人間が手を入れなくなった、③外来種の持ち込み、化学物質の排出などで生態系を攪乱した、④地球温暖化の影響、が挙げられています。

生態系の多様性

海や川、森、里、さまざまな自然があること

種の多様性

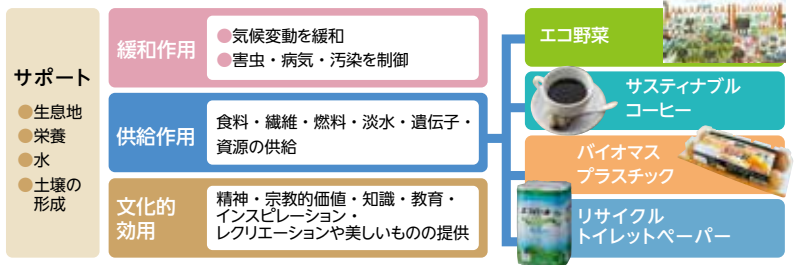
いろいろな生き物がいること

遺伝子の多様性

同じ種でも個体差があること

生物多様性を守る取り組み(供給作用)

私達が生きるために必要な酸素は植物によって作られ、汚れた水は微生物などによって浄化されています。このように私達人間はいろいろな生き物からさまざまな「恵み」をもらって生きています。こうした恵みを与えてくれる生物多様性を守って作られた食べ物や製品を選んで購入することが生物多様性を守ることに繋がります。ユニーはこうした「供給作用」をお客様のお買い物を通して行っています。



テーブル上の生物多様性

ユニーの売り場に並んでいる食品は「生物多様性の恵み」です。生物多様性を身近なことに感じ、「私達は生き物の命をいただいて生きている」こと、自然環境やそこで生きる生き物を大切に守ったうえで生産された食べ物を選ぶことで、生物多様性に貢献することを伝えることが私達の務めです。

アトランティックサーモン

ノルウェーのきれいな海を守るために、養殖場から加工工場まで汚水を外に出さないシステムを構築、加工工場の汚水は魚油としてリサイクルしています。



サーモン

みそ汁



愛知県の伝統発酵食品 (ハ丁味噌)

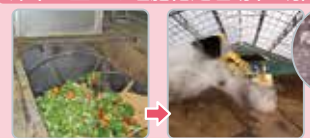
ハ丁味噌は、愛知県の伝統的な発酵食品で、大豆と塩を原料に木製の樽に仕込む、昔ながらの製法で生産されています。



食品リサイクル～命をつなぐ環～

店舗から排出される食品残さ(野菜クズや魚アラなど)を原料にした堆肥を使うと、土壌を健康に豊かにする微生物やミミズが生きている畑や田んぼになります。こうした畑や田んぼで野菜や米が育てられています。

津市の生ごみ堆肥化処理場(三功)



2011年に食品リサイクル法再生利用事業計画に認定されました
三功グループと進める
“食品リサイクル”

生産



堆肥を使うことで土の中の微生物の働きを活発にし、畑を豊かにします

店舗



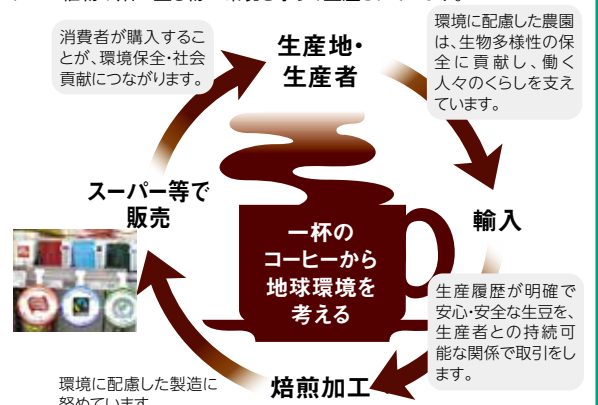
店舗から出る食品残さを分別

商品



サステナブルコーヒー

熱帯雨林の下でシェイドグロウン農法有機栽培で生産したコーヒーは、ジャングルの植物や畑の生き物の環境を守って生産されています。



生物多様性に配慮した商品の販売

自然を守ることが生き物を守ることになり、そうして作られた食物や製品をユニーが販売して、お客様が選んで購入して下さる、こうした生物多様性への応援がお買い物でできることを、消費者の方にもっと知っていただけるよう努力しています。

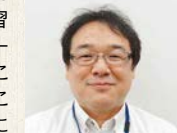


FSC認証のeco!on学習帳

FSC森林組合が定めた「正しく管理された森林」の基準を満たした木材や製品に認定されるとFSC認証マークが付きます。このマークの付いた原料紙で小学生の使う学習帳を作りました。FSC認証マークの付いた商品を購入することで、森林保全に貢献できることを、環境学習で子ども達に伝えています。



FSCマーク付



ホビー&ステーショナリー部
チーフバイヤー 佐藤 雄一



バイオマス素材の詰め替えボトル

ユニーではバイオマス原料を使用した「詰め替えボトル」を販売しています。バイオマス原料を使用することで化石原料の使用を抑制し、CO2削減に貢献します。また詰め替えボトルの使用を推奨し、詰め替え用品の購買を促進していくことで家庭から出るゴミの削減にも貢献しています。



ヘルス&ビューティ部
部長 千葉 哲志



サステナブルコーヒーに寄せて

コーヒーの木は、熱帯・亜熱帯の豊かな森で育てられています。例えば、パナマのコーヒー農園には、絶滅危惧種に指定されている動植物の30%が存在しています。この生き物たちと共存できるコーヒーの栽培をしている農園や働く人々の生活の安定や向上につながる取り組みをしている農園のコーヒーを応援しています。コーヒーを通じ、地球の未来と誰かの笑顔につながることを願っています。



珈琲工房ひぐち
樋口 美枝子さん

いろんな生き物と一緒に生きる

次世代を担う子ども達に、身近な生き物と触れ合うことで命を育む食べ物ことや、いろんな生き物と一緒に生きていることを体感する環境学習を行っています。

▶ 農業体験

食品リサイクルグループによる循環型農業を行っている畑や田んぼで、農業体験を実施しました。食品残さの堆肥は発酵するときにガスや熱を出すことを臭いや熱さで体感したり、カエルの住む田んぼで田植えをしました。



田んぼの感触は初めての体験

▶ 川の水生生物を観察

大垣市の郊外にある牧田川で、川に住む生き物を観察しました。石の下に住む水生昆虫や魚を捕らえ、名前を調べ形や動きを観察してから川に戻しました。



山の近くの清流で魚や昆虫を見つけました

▶ 森の探検

名古屋市郊外の定光寺や犬山市の森の中で、いろんな植物や生き物を見つけました。専門のインタープリターに森や生き物の話を聞きました。また、森の中で生き物が繰り広げる循環や私達が森から恵みを受けていることを学びました。



名古屋市近郊の森で生き物探し

お店で生き物と触れ合いました

子ども達がお買い物に訪れるアピタの店でエコ博を開催し、生き物の命に触れ、「みんな大切な命」について学びました。

▶ 名古屋港水族館

移動水族館でアカウミガメと触れ合いました。また名古屋港水族館を訪れる子ども達の観察ノートを作成し、海の生き物について学ぶための支援をしています。



水族館生まれのアカウミガメの赤ちゃん

▶ 日本モンキーセンター キッズゾーン

公益財団法人日本モンキーセンターと協働で、子ども達が生き物と触れ合うキッズゾーンを開催しました。また講師のキュレーターによる生き物クイズで楽しく学びました。



不思議な形の生き物も地球の仲間

▶ 愛知県三河湾再生プロジェクト

愛知県との協働で、子ども達に三河湾に親しんでもらうために水生生物との触れ合い、名産のアサリのつかみ取りなどを実施しました。



三河湾の生き物と触れ合う

森を守る活動

▶ 森の町内会

森を守るために間伐し、その費用を環境評価として価格に反映させた紙を選んで使うことで、森林保全に貢献する活動です。ユニーは2015年の環境レポートに4,500kgの森の町内会「間伐に寄与する紙」を使用したことで、長野県の森0.39haの間伐に貢献しました。



森の町内会

▶ 森の命を守る活動(キリン水源の森保全活動)

キリン水源の森を保全する活動に、お客様と一緒に参加しました。森を整備するために間伐作業を森林保全協会の指導で行いました。



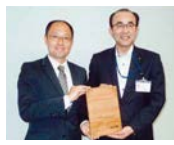
キリン・ライオン共同企画



キリン水源の森保全活動

▶ 森を守るドネーション企画

商品を買っていただくことで森を守る活動エコとくお買い物券(家庭で不要になった衣料を回収し、配布したクーポン券)の使用枚数1枚に3円を寄付。森林再生のために「公益財団法人Save Earth Foundation」に74万円寄付しました。



エコ特お買い物券でSEFの森林活動に寄付